

長く飲み続けていただくために

■ジェネリック医薬品って何？

お薬には、新規に開発・発売された「新薬」と、新薬の特許が切れてから発売された「ジェネリック（後発）医薬品」とがあります。

■新薬とどう違うの？

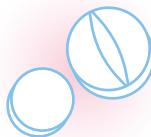
ジェネリック医薬品は、研究開発などにかかるコストがおさえられていることから、国が薬価を新薬よりも低く設定しています。

■どんなメリットがあるの？

長くお薬を飲み続ける疾患の場合、低価格のジェネリック医薬品を選ぶことで、新薬を選んだ場合に比べお薬代の自己負担は軽くなります。

ジェネリック医薬品は、新薬と有効性・安全性が同等と確認されています。

また、お薬の形、大きさ、味などを患者様が飲みやすいように改良されているものもあります。



クロピドグレル錠「EE」は、
お薬代の負担が軽減されるジェネリック医薬品です。

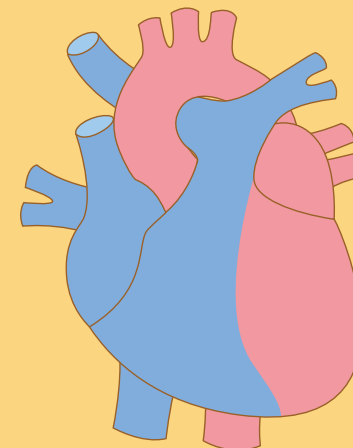
医療機関名

クロピドグレル錠「EE」 を服用される 虚血性心疾患の 患者さまへ

【監修】

神戸大学医学部附属病院 循環器内科 教授

平田 健一 先生



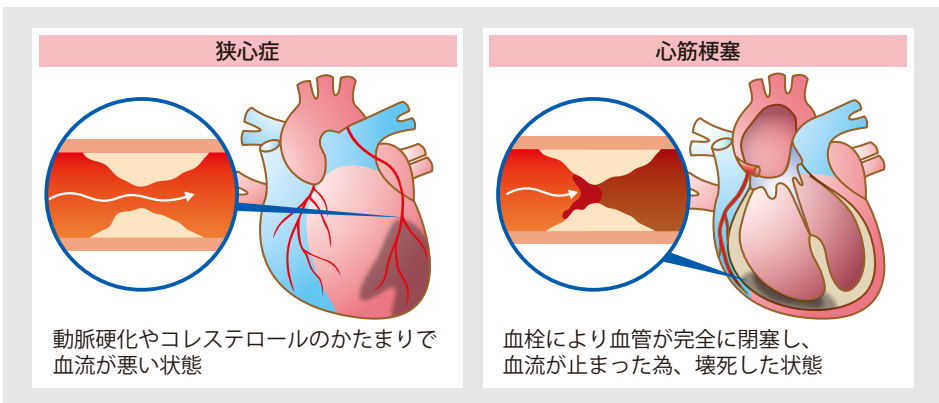
虚血性心疾患を治療しましょう

虚血性心疾患とは？

心臓は1日約10万回、拍動を繰り返しています。この心臓の筋肉（心筋）に血液を送りこんでいる「冠動脈」が詰まって、十分な酸素や栄養が供給されなくなり、心臓の働きが障害されるようになる疾患です。

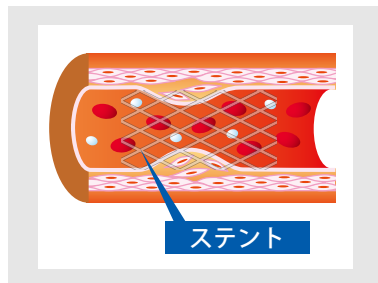
どんな病気があるの？

虚血性心疾患には、心臓の血液が不足して一時的に胸が痛くなる「狭心症（きょうしんしょう）」と、心筋の一部が死んで激しい胸の痛みが続く「心筋梗塞（しんきんこうそく）」があります。



どうやって治療するの？

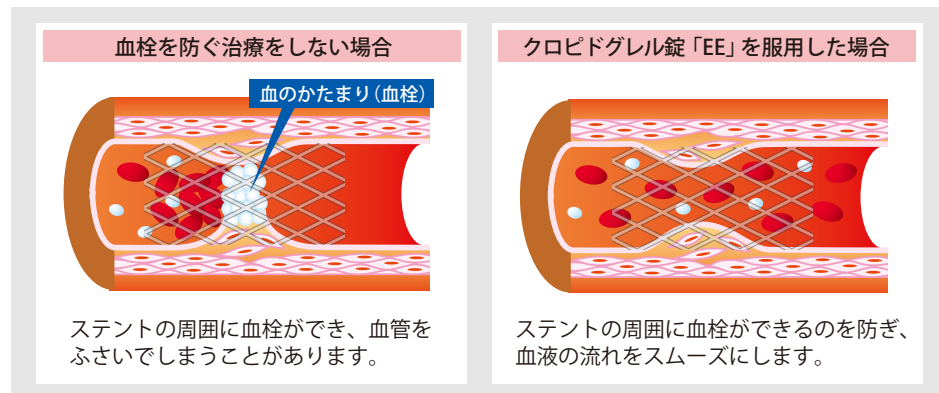
血液の流れをスムーズにするお薬を服用し、症状によっては血管内にステントを留置する手術などを行います。ステントは医療用金属でできたメッシュ状の小さな筒で、冠動脈の詰まったところに留置することで、血管が再び狭くならないよう内側から支え続けます。



クロピドグレル錠「EE」について

ステントを留置することは安全で有効な治療法ですが、まれに一部の患者さんでステントの周囲に小さな血のかたまり（血栓）ができ、心臓発作がおこることがあります。

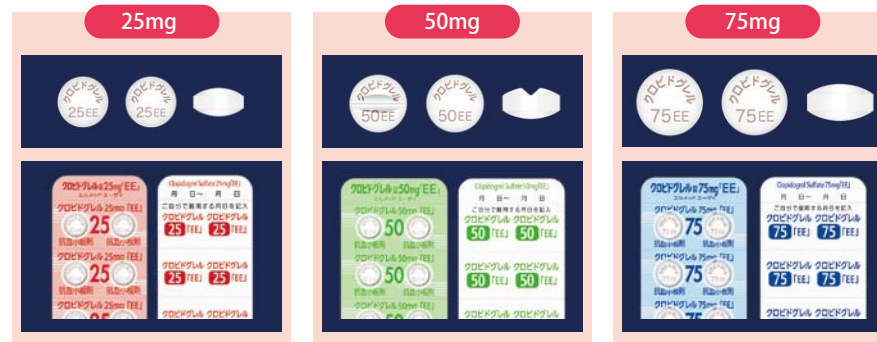
クロピドグレル錠「EE」は、血栓ができるのを予防し、心臓発作のリスクを下げるお薬のひとつです。



血栓は、ステントを留置してから短期間でできやすいとされていますので、様子を見るためにも一定期間、医師の指示に従ってお薬を飲み続けます。

● クロピドグレル錠「EE」について ●

クロピドグレル錠「EE」は、25mg錠、50mg錠、75mg錠の3つの規格があります。色・剤形は、白色～微黄白色のフィルムコーティング錠です。



服用中、守っていただきたいことがあります

決められた通りの服用を

このお薬は、血栓ができるのを防ぐためにも、毎日飲み続けることが大切です*。自己判断で飲む回数を減らしたり中止したりすると、血栓ができるおそれがあります。医師から指示された通り、きちんとお薬を飲みましょう。※なるべく空腹時はさけてください



飲み忘れに要注意

飲み忘れに気づいたら、すぐに1回分を飲んでください。次の服用時間が近ければ1回分をとばし、次からまた時間通りに飲んでください*。※2回分を一度に飲んではいけません



飲み始めはこまめな受診を

まれに肝障害や血液障害などの重い副作用がおきることがあります。特に飲み始めの2ヵ月間は、定期的に医師の診察を受け、肝機能や血液の検査など、医師の指示に従ってください。



他の治療を受ける時は、医師に相談

抜歯や手術をするとき、このお薬を飲んでいると、その影響で血が止まりにくくなる場合があります。また、他のお薬が、クロピドグレル錠「EE」の働きに影響をおよぼす場合もあります。

他の病院・診療所を受診するときは、かならずこのお薬を飲んでいることを医師や歯科医師に伝えてください。



服用中、守っていただきたいことがあります

体調の変化に注意

このお薬を飲んでいつもと違う以下のような症状があらわれたら、すぐに医師・薬剤師に連絡し、指示に従ってください。ご家族にも気をつけて見ていただくようにすると良いでしょう。



・鼻や歯ぐきから出血する



・白目や皮膚が黄色くなる
・紫色や赤色のあざができる、
ブツブツや赤みができる



・尿が茶色っぽくなる、
尿に血がまじる
・黒い便ができる



・風邪のような症状（発熱、
寒気、のどの痛み）ができる



・つよい疲労感、食欲低下がある
・意識がもうろうとする

生活習慣の改善を

虚血性心疾患の発症には、高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病が大きくかかわっています。医師と相談しながら、禁煙をはじめ、食事や運動などの生活習慣を見なおしましょう。

- ・高血圧、糖尿病、脂質異常症などがある場合には、適切な治療を行う
- ・定期的に健康診断を受け、血圧、コレステロール、中性脂肪、血糖などをチェックする



・塩分・脂肪を控え、食べ過ぎないようにする

- ・お酒を飲み過ぎない
- ・たばこを吸わない



・肥満の解消を心がける



・青魚、野菜、くだものを積極的に食べる

・水分を十分にとる



- ・適度な運動をする
- ・ストレスや疲労をためない



・入浴はぬるめのお湯で短い時間にする